

福祉系大学経営者協議会 令和5年度第1回総会 開催報告

令和5年6月29日(木)、福祉系大学経営者協議会 令和5年度第1回総会をオンラインで開催し、19校33名にご出席いただきました。

冒頭、丸山悟会長(学校法人日本福祉大学 理事長)より、「最近、子ども・保育・幼児教育等の分野を持つ大学から、広い意味で福祉の価値の発信について大学間で協働して取り組む必要があるのではないかという声を聞くようになった。また、この間の社会状況を見ると、これまでの支援の取り組みからは理解しがたいような深い問題がある。福経協としては、世論喚起につながるようなソーシャルアクションを適切適時に起こしていくことにも留意したい。福祉を取り巻く課題に対しては、新たな子ども家庭ソーシャルワーカーの役割を含め、奥深い問題に立ち向かえる人材を育てるための養成プログラムの開発に力を入れる必要があると考えている。本日は、大いに積極的な意見交換を行い、次の時代の行動計画を打ち立てることができたらと思っている」との開会挨拶がなされました。

■第1部 総会■

令和4年度事業報告・決算、令和5年度からの役員体制、令和5年度事業計画・予算等について審議しました。令和4年度事業報告、令和5年度事業計画は、当サイトよりご覧ください。

■第2部 話題提供および会員校の情報交換■

1. 話題提供

「多様な時代における社会福祉士の可能性 –周南公立大学が育成する福祉人材–」

周南公立大学 福祉情報学部教授 学部長・学長補佐・地域福祉学習センター長 難波 利光 氏

話題提供として、周南公立大学より取り組み事例をご報告いただきました。出席者から質問が出され、活発な意見交換がなされました

2. 会員校の情報交換

出席校の近況（学生募集状況、学部等の改組、就職状況、国家試験の結果等）について情報交換を行いました。

最後に、長谷川匡俊副会長(学校法人大乗淑徳学園 理事長)が、「本日の各会員校からの報告では、危機感に満ちた報告が多くあった。福経協の取り組みを通じてこれまでに以上に福祉のポジティブな面を打ち出し、ネガティブなイメージを払拭していく必要性を感じている。また、大学院の問題については取り扱ってこなかったが、教育と研究の良い循環をリードするという観点から福経協の新たな課題となるのではないかと考えている。周南公立大学の報告からは、地域共生社会の実現に向けて、地域に出ていきマネジメントも担えるような専門職の養成について、各大学の取り組みを福経協がさらに活性化していく必要があることを強く感じさせていただいた」とのまとめの挨拶がなされ、閉会しました。